

地域おこし協力隊通信 (No. 57) 協働のまちづくりにチャレンジ

飲食店の営業再開など、少しずつ、新型コロナウイルス感染症と付き合いながらの生活が定着してきたように感じられます。

これからも一人一人の感染予防対策を続けながら、『ウィズコロナ』の種子島が元気になっていくことを期待しています。

さて、みなさんのお力を借りて8月に開店したチャレンジ拠点YOKANA（よかな）では、少しずつ住民の皆さんが持つアイデアが形になっていきます。

活動が生まれるということ、自分自身のスキルを活かして楽しみを作ること。そして、地域の魅力が残ることに繋がるため、とつても素敵なことだと思えます。

改めて、YOKANAに訪れて相談をしていただき、誠にありがとうございます。

YOKANAではアドバイザーだけでなく、伴走して一緒に作り上げる『協働の地域デザイン』を行っています。

どんな小さいことでもかまいませんので、ぜひ「やってみたい！」と思い立ったことがあれば、お気軽にご相談にきてください。

これまでの相談では、商店街の朝を盛り上げる朝活イベント『シエスタ』の開催や、休耕田を再生する『フルーツの森プロジェクト』の相談など、様々な分野の取り組みが生まれています。

町民の皆さんが企画したイベントや取り組みはYOKANAの窓にも掲示しているのですが、前を通った時にはぜひ足を止めてご覧になってみてください。

FacebookのQRコードはコチラ。中種子町の「新しいこと」を発信しています。



—湯目 由華（ゆめ ゆか）—
中種子町地域おこし協力隊員。岩手県出身。誰かの「やってみたい！」を一緒に実現する人。地域コーディネーター。

子供たちの情報活用能力の育成を図る 野間小学校

野間小学校では、子供たちの情報活用能力を育成するために、日々の授業や日常生活の中で、いつでもICTを活用することができるよう取り組みを進めています。

また、夏休み以降、タブレットの持ち帰りや家庭学習での活用も始めました。保護者の意見も随時聞きながら、どうすれば子供たちの情報活用能力を育成できるのか、学校・保護者・地域と一体となって試行錯誤をしているところです。

授業では、20人から40人までの学級でなかなか個人の意見が表に出しにくかったところ、ICTの活用により、リアルタイムに子供の意見が出されるようになりつつあります。

一部の子供たちが活躍しただけでなく、全員が活躍する授業へと転換を図っているところです。

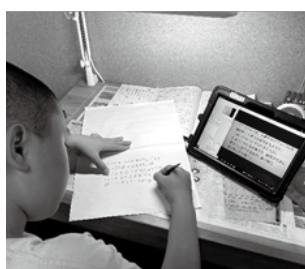
家庭学習では、授業で出された課題にくり返し取り組んだり、自分の思いをどうにか伝えようと添削をくり返しながら文章を作成したりする姿

が見られるようになりつつあります。学校での学習から発展し、よりよいものを作り出そうとする子供の姿も大きな変化だと捉えています。

情報端末は学習の道具です。子供たちもまた試行錯誤をくり返ししながら、考えを広げたり深めたりしているところです。今後もしばらく子供たちの能力育成につながるのか、未来の社会を支える子供たちに必要な能力の育成のために取り組みを継続していきたいと思っています。



授業中：タブレットを活用した対話活動



家庭：家庭でのタブレット活用の様子